

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	さのマラソン大会開催支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	スポーツ推進課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	市民スポーツ係				項	5	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2211	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			終了年度		事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	スポーツツーリズムの推進						
	基本事業	1	スポーツツーリズムの推進						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	全国からランナーを迎え、スポーツツーリズム事業として本市のPRとイメージアップを図り地域振興に繋げる。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市内外からの参加者の健康増進及び市外参加者には本市のPRを図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		参加人数	人	値が大きいほど良い	2000	2000	2200	2200	2200
		内、市外参加者数	人	値が大きいほど良い	1000	1000	1100	1100	1100

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	開催日 令和7年12月14日（日） コース 清酒開華スタジアム及び運動公園周辺 種目 ハーフマラソン、5km、2km小中学生、2kmペアラン	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		参加人数	人	1,227	1,455	1,191	1,452
		内、市外参加者数	人	483	722	660	891
		事業費計	千円	2,000	5,000	6,950	8,000
		一般財源	千円		3,000	3,950	0
		特定財源（国・県・他）	千円	2,000	2,000	3,000	8,000
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	参加者の半数は市外からの参加者であり、ツーリズム事業として効果があったと考える。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		参加人数	人	1,227	1,455	1,191	1452	効果が上がった	×
		内、市外参加者数	人	483	722	660	891	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	2指標
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※10万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

今年度ハーフマラソンと5kmの部門ともに定員に達したため、定員枠を拡大するための運営体制の検討や駐車場の確保を行う。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><th>取組説明</th></tr><tr><td>マラソン大会を取り巻く環境としては、フルマラソンやハーフマラソンの開催、コースの公認化では定員に達しない大会が散見しており、競技性という枠だけではなく誘客につながる取り組みを検討していく必要があり、佐野市として、さのマラソン大会の事業の方向性を再検討していく。</td></tr></table>	取組説明	マラソン大会を取り巻く環境としては、フルマラソンやハーフマラソンの開催、コースの公認化では定員に達しない大会が散見しており、競技性という枠だけではなく誘客につながる取り組みを検討していく必要があり、佐野市として、さのマラソン大会の事業の方向性を再検討していく。
取組説明			
マラソン大会を取り巻く環境としては、フルマラソンやハーフマラソンの開催、コースの公認化では定員に達しない大会が散見しており、競技性という枠だけではなく誘客につながる取り組みを検討していく必要があり、佐野市として、さのマラソン大会の事業の方向性を再検討していく。			

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	サイクルツーリズム推進事業	実施計画事業or一般事業	施設計画事	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	会計科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	スポーツ推進課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	スポーツツーリズム係			項	5	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2211	名称	根拠法令、条例等	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	R5	実施方法	一部委託
	政策	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり		終了年度		事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	スポーツツーリズムの推進					
	基本事業	1	スポーツツーリズムの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	本市の地理的・地形的特徴を生かしたサイクルイベントの開催等サイクリスト誘客につながる事業の実施によりサイクルツーリズムの推進を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	多くのサイクリストが、本市を訪れる。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10
		サイクルイベント参加者数	人	値が大きいほど良い	100	100	150	150

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)		活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	サイクルイベントの実施	回		1	1	1	
	令和7年11月23日（日）、自転車活用による地域活性化に取り 組む地域団体及びAstem宇都宮ブリッヂと連携し、ロードバイクの 安全走行を目的としたサイクルジムカーナと自然豊かな奥佐野地域 を周遊するライド（約30Km）を実施						
	エイドステーション及びゴールでは、佐野市のご当地グルメ「いもフ ライ」「佐野らーめん」を提供し、本市の魅力の一部を紹介した。						
	事業費計	千円	0	2,983	566	999	
	一般財源	千円		0	0	0	
	特定財源（国・県・他）	千円		2,983	566	999	
	（うち受益者負担）	千円		0	0	0	

（3）活動による効果

効果説明	・参加者アンケートでは「来年のイベントにも参加したい」「ラーメンの提供がうれしかった」などおおむね好評を得たものとなっている。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			サイクルイベント参加者数	人		70	90	18	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	1指標		達成	未達成	1指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	未達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定	目標未設定	目標未設定
指標全体		効果が下がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・スポーツイベントの告知、募集を行えるWebサイトを活用し50名を限度に募集を行ったが、申し込みが少なかった。（24名→キャンセルありで18名参加） 次回は、さらなる集客を得るべく、ターゲットを見据えたイベント告知を積極的に行っていく必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 令和8年度は、地域団体主催による「第4回ツール・ド・奥佐野」の開催が見込まれていることから、市もこれと連携し、より魅力的なサイクルイベントとしていく。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	スポーツツーリズム推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	スポーツ推進課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	スポーツツーリズム係			項	5	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2211	名称	根拠法令、条例等	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H26	実施方法	一部委託
	政策	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり		終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	スポーツツーリズムの推進					
	基本事業	1	スポーツツーリズムの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市外スポーツ団体等に対し、本市スポーツ施設を提供し本市での各種スポーツ大会、合宿等の実施を推進する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	各種スポーツ大会、合宿の誘致、実施によりスポーツによる市外からの誘客を図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		宿泊者のあるスポーツ大会又は合宿の数	件	値が大きいほど良い	40	35	35	35	35
		スポーツ大会又は合宿等の市外参加者	人	値が大きいほど良い	8,500	20,000	20,000	20,000	20,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	市が誘致、支援した主なものは、以下のとおり ①石井琢朗杯選抜中学野球佐野大会（5/10・11・17） ②SANOTフライライトゲームズ（8/11） ③エンバシーカップ2025（10/25） ④FLV唐沢山決戦（1/24・25） ⑤SBIカップ2026（3/14・15） これらの大会等において、佐野市の観光PR（物販含む）やさのまゐの出演を調整した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		誘致等した大会、合宿	件	11	9	8	8
		事業費計	千円	200	200	396	246
		一般財源	千円	200	200		146
		特定財源（国・県・他）	千円			396	100
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	・市有スポーツ施設の稼働率は高く、新しいスポーツ大会等の誘致はできなかったが、クリケットの国際大会等が複数実施されたことで、市外参加者数は、目標値を大きく超えた。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			宿泊者のあるスポーツ大会又は合宿の数	件	28	28	31	31	効果が上がった	×
			スポーツ大会又は合宿等の市外参加者	人	7,241	13,447	15,362	23,179	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	2指標		達成	1指標	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった					

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市有スポーツ施設は、常に稼働率が高く特に遠方から大会、合宿で訪れることができる週末、長期休暇中の連続利用は困難な状況にあるが、栃木県スポーツコミッションが予定している平日利用促進に係る事業と連携し、合宿等の誘致を図る必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状のスポーツ大会等を継続するとともに、新規で受け入れられる大会等を栃木県スポーツコミッションと連携し模索していく。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	国際クリケット場維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	スポーツ推進課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	スポーツ施設係				項	5	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	佐野市国際クリケット場条例、佐野市国際クリケット場 条例施行規則		開始年度	H25	実施方法	直営
	政策	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	スポーツツーリズムの推進						
	基本事業	1	スポーツツーリズムの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	・国際試合も実施可能な天然芝グラウンドの維持管理及び施設の修繕、光熱水費・委託料等の支払い ・平成28年4月に佐野市国際クリケット場条例を施行し、呼称を「佐野市国際クリケット場」に変更、平成29年度より国際クリケット場維持管理事業
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	・利用者が安全で快適に利用できる施設・設備環境の整備が図られる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		利用者数	人	値が大きいほど良い	20000	20000	20000	20000	20000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	・体育施設の維持管理・施設の修繕・光熱水費・委託料等の支払い	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		利用者数	人	18,092	18,499	17,723	19,935
		事業費計	千円	17,772	23,037	28,090	19,579
		一般財源	千円	17,772	18,021	27,353	18,955
		特定財源（国・県・他）	千円		5,016	737	624
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明	・スポーツ大会やスポーツ合宿を誘致、スポーツツーリズムを主体的に供用、市内施設での合宿やイベント等により集客する。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		利用者数	人	18,092	18,499	17,723	19,935	効果が上がった	×

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

より多くの利用者や団体に利用してもらえる取組みを実施する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	大澤駅伝競走大会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	スポーツ推進課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	市民スポーツ係				項	5	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2211	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	S26	実施方法	直営
	政策	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	スポーツツーリズムの推進						
	基本事業	1	スポーツツーリズムの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	大澤駅伝競走大会開催を支援する。
------	------------------

(2) 目的		(3) 目標値			↓選択して下さい		後期計画			
目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	大会の開催を通し、地域の陸上競技の普及と技術力の向上を図るとともに、地域住民の連帯と絆を一層強めることを目的とする。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
		エントリーチーム数	チーム	値が大きいほど良い	150	200	200	200	200	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	第76回大澤駅伝競走大会 開催日 令和8年2月1日（日） 会場 佐野市運動公園周辺 競走区分 一般男子、高校生男子 42.195 km 一般男子、一般女子・高校生女子 21.0975 km 中学生男子 18.0 km 中学生女子 11.0 km	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		市外からのエントリー数	チーム	122	135	125	168
		事業費計	千円	700	700	700	700
		一般財源	千円	700			
		特定財源（国・県・他）	千円		700	700	700
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果		(4) 事業効果を説明する数値データの推移							
効果説明	参加チームの約80%は、市外からの参加であり、スポーツツーリズムの推進が図られている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		エントリーチーム数	チーム	146	159	175	191	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 （R7と過去3年平均の指標値増減）	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

運営体制の強化が必要である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 高齢化に伴う運営側の人員不足について、関係者で協議する必要がある。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	スポーツボランティア育成事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計		事業計画	単年度繰り返し
	課	スポーツ推進課		スポーツボランティア育成事業		款		新規or継続	継続事業
	係	市民スポーツ係				項		市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2212	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目		義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H 26	実施方法	直営
	政策	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			終了年度		事業分類	人材育成事業
	施策	1	スポーツツーリズムの推進						
	基本事業	2	スポーツを支える環境づくり						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	スポーツボランティアの確保およびスポーツイベントへの協力要請。
------	---------------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	スポーツイベントの運営や歓迎に協力するスポーツボランティアの確保と育成を目的とする。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		スポーツボランティア登録者数	人	値が大きいほど良い	155	160	160	160	160

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	市主催のさのマラソン大会等の協力要請を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		ボランティア参加大会数	回	4	3	2	4
		事業費計	千円	0	0	0	16
		一般財源	千円				16
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	支えるスポーツは市民の協力なしにスポーツ大会イベントの運営等を果たせず、スポーツを推進する上でスポーツボランティアの活用は重要である。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		スポーツボランティア登録者数	人	51	12	16	20	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定		
	指標全体	効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

人材発掘、確保する上でさらなる制度周知が必要である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	クリケット国際交流事業	実施計画事業or一般事業	施設画事	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	スポーツ推進課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	スポーツツーリズム係			項	5	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2213	名称	根拠法令、条例等	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H28	実施方法	一部委託
	政策	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり		終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	スポーツツーリズムの推進					
	基本事業	3	クリケットタウンの推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	世界的なクリケット名門クラブ マリルボーンクリケットクラブ（MCC）や国際クリケット評議会（ICC）と本市との友好関係に基づき、クリケットの専門家の派遣を受け、主に市内小学校等児童を対象にした英語を使ったクリケット体験会や国際理解を目的とした授業等を実施する。
------	--

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	招致した外国人によるクリケット体験会により、クリケットに触れる機会の提供と国際理解につながる場の提供	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		本事業を肯定的にとらえた学校の割合	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100
		本事業により英語でクリケットを体験した児童・生徒数	人	値が大きいほど良い	300	300	300	300	300

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	市内小学校等を訪問し、英語でのクリケット体験、外国文化の紹介を実施。また、クリケット場で行われる体験会において、市民との交流を図った。（日本クリケット協会に委託） コーチ：モリー・オーベンデン（MCCコミュニティコーチ） 派遣期間：令和7年10月20日から11月14日 主な業務：英語を使ったクリケット体験（6校14回）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		クリケット体験会を実施した小学校	校	0	4	3	6
		事業費計	千円	0	499	499	499
		一般財源	千円				
		特定財源（国・県・他）	千円		499	499	499
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	児童の感想として「自分の英語が通じてうれしかった」「英語だけでなくクリケットを体験出来てとても面白かった」というもの、先生の感想としては、「モリーさんを通じて英国に興味を持ち、積極的に質問していた。」「学校で習った英語を使いながら、一生懸命に話しかけ、コミュニケーションを取ろうとする姿が印象的だった。」と、本事業の目的に沿った効果があった。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		本事業を肯定的にとらえた学校の割合	%				100	100	効果は変わらない	○
		本事業により英語でクリケットを体験した児童・生徒数	人				303	419	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標
	目標未達成だった指標数	0指標
	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	1指標
	効果が下がった指標数	0指標
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	指標全体	効果が上がった
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断

目標達成	達成	効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	未達成	1指標	1指標	
目標未設定				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

各学校で本プログラムを取り入れてもらうため、早期、複数会の事業紹介を行う必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 小学校での活用について、教育委員会や校長会等で説明する。また、受入現場の意見を取り入れるなど活用しやすい方策を検討する。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	クリケット活用地域活性化事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事項	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	スポーツ推進課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	スポーツツーリズム係				項	5	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2213	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H29	実施方法	一部委託
	政策	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	スポーツツーリズムの推進						
	基本事業	3	クリケットタウンの推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	クリケット国際大会等、主要なクリケット大会等の開催および支援、国際クリケット場の利活用促進及びプロモーション活動を実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	スポーツとしての「クリケット」だけではなく、クリケットに関わるさまざまな価値を活用し、スポーツツーリズムによる地域経済の活性化をはじめ、海外との経済交流のきっかけとなること、国際交流を推進することを目的とする。	効果指標	単位	指標の性質	R7	後期計画			
		クリケット場来場者	人	値が大きいほど良い	16,000	R8	R9	R10	R11

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	①クリケット大会の開催 ・日本を含む5カ国による女子国際大会「女子佐野市国際トロフィー」を開催し、期間中約600泊の宿泊、中・高校生徒の国際交流の機会を創出した。 ②クリケット大会等の支援 ・エンバシーカップ2025、SBIカップ2026ほかの支援（交流会の実施、駐車場警備、高校訪問、市各種事業PR等） ③クリケット場の利活用促進策の実施 ・インディアフェス、スポフェス、キッズサッカー大会支援等 ④プロモーション活動 ・黒執事コラボマンホールの作成	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		支援したクリケット大会等	件	4	6	4	4
		市が主催・協力したクリケット以外の事業	件	7	6	9	6
		事業費計	千円	9,162	9,498	7,921	15,195
		一般財源	千円	5,162	3,498	0	5,362
		特定財源（国・県・他）	千円	4,000	6,000	7,921	9,833
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	年間を通し、クリケット以外による誘客策を実施したことで、クリケットプレイヤー以外の来場者を確保することができた。また、商業施設内でクリケット体験イベントを実施した。これらにより、クリケットにあまり興味がない市民等に対し、クリケットへの理解やクリケットのまち佐野の認知度向上に寄与したと考える。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		クリケット場来場者	人	39,889	37,948	39,595	23,875	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果	
	目標未達成だった指標数	0指標		
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない
	効果は変わらない指標数	0指標		1指標
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定	
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・市主催国際大会時の中高生国際交流に関し、各校への取組説明を始める時期が遅かったため、取り組める学校が3校となってしまった。 R8も市主催大会を予定していることから、より早期に取り組み、多くの学校、生徒との国際交流の機会を創出する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明	①市主催「クリケット国際試合」の誘致 ②各種メディアを活用した情報発信 ③クリケット場以外でのクリケット体験会の実施
---	------	--